

東 久延 議員

(一問一答方式)



- ① 榎谷棚田の保存・活用について
- ② 長浜地域の津波浸水対策について
- ③ 漁業者支援について
- ④ 立地適正化計画の方向性と市内住み替え支援について

榎谷棚田へのアクセス道整備について

問 榎谷棚田へのアクセス道は、山間地を通ることもあり、道幅が狭く、降雨等により路面状況が頻繁に悪化している。定期的な路面整備や、新たな離合場所の設置について、考えを伺いたい。

答 榎谷棚田へのアクセス道については、長浜町黒田から無事喜地を経由するルートと、白滝から戒川に至るルートがあります。この2つのルートは、ほとんどが山間部に位置し、土砂崩れや落石、倒木等が発生しやすい環境にあることから、路面状況を注視し、必要に応じてグレーダー等による路面整備を実施しており、今年度も、4月から5月にかけて実施しています。

また、令和4年度に地元からの要望を受け、現在、白滝から榎谷へ向かうルートのうち、戒川石堂地区において、令和7年度から令和9年度の3か年計画で、延長約240メートル間において道路の拡幅工事を実施しています。

新たな離合場所の設置については、現在実施中の工事が完了した後の交通状況等を確認したうえで検討したいと考えています。

長浜地域の津波浸水対策について

問 伊予灘沿いに集落が点在し、海岸線に避難道となる国道378号が通っている長浜地域にとって、津波による浸水被害を防ぐことは重要なことだと考える。海岸線の護岸整備や開口部の陸閘整備がどうなっているのか伺いたい。

答 海岸線の護岸や開口部の整備状況について、国が管理する長浜大橋から新長浜大橋までの区間については、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所に確認したところ、既に堤防及び護岸の対策と

陸閘の整備が完了していると伺っています。

次に、愛媛県が管理する国道378号沿いの長浜町拓海から長浜町出海までの海岸については、愛媛県大洲土木事務所に確認したところ、ほとんどの範囲が整備済みであり、晴海岸壁や東岸壁、小型船だまり入り口などの開口部についても、7か所全てが整備済みであると聞いています。

一方で、長浜港内の定期旅客船あおしまの発着場付近から晴海工業団地西端の黒田防波堤付近の約700メートルが未対策区間となっていますが、この区間を含む長浜港の内港部については、現在愛媛県と大洲市が共同で事業を進めている長浜港内埋立事業により、埋立地の高さを背後地より高くしているため、国道378号と主要地方道大洲長浜線の交差点から長浜の町なかに向けての津波防災機能が高まると考えています。

また、市が管理する喜多漁港など、5つの漁港の出入口や国道378号から砂浜等への出入口、さらに地域の河川や排水管などの開口部については、漁港の出入口には陸閘、河川には水門、排水管にはフラップゲートなど、それぞれの構造に応じた対策の必要性に関する調査について検討していきたいと考えています。

立地適正化計画の方向性と市内住み替え支援について

問 本市では、立地適正化計画に基づき、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進めているが、本計画が目指す目的と、その方向性について伺いたい。

答 大洲市立地適正化計画の目的は、人口減少下でも行政コストを抑え、医療・商業・公共交通などの暮らしの基盤を将来世代へ持続可能な形で引き継ぐことにあります。

市の基本方針は、周辺部の特性や地域コミュニティを大切にしながら、拠点間を交通網で結ぶコンパクト・プラス・ネットワークであり、ライフステージに応じた緩やかな住み替えを基本としています。

本市では、これまで都市再生整備計画事業等により、肱南地域交流センターをはじめ、公園や街路などの基盤整備を進めてきました。今後も、市民文化会館など、各種整備を進め、居住誘導区域内の生活環境の充実に努めていきます。